

序

今年は新たに4名の1年生が加わり、2年生5名、3年生5名、4年生5名、総勢19名のゼミとなった。教育実習も、昨年に続き、なんとか全員の研究授業をみることができた。和寒を除く4名が旭川市内ではあったが、なかなか遠方で楽ではなかった。本年度卒業予定の4人（メッシこと遠藤和馬は留学のため卒業が1年延びました）は、今年は教員志望が小学校希望の1名が札幌での採用となった他、留萌市役所に北海道教育大学事務、残念ながら1名の進路がまだ決まっていない（このまま行けば臨採か？）。就職に関する今年の傾向は、社会学ゼミに限らず公務員志望者が苦戦したことだったように思う。

ゼミ運営も例年通り、前期は主に文献購読、後期にゼミ誌の作成といった内容である。今年は1年がかりでスチュワートの『世界の食料ムダ捨て事情』（NHK出版、2010）を読んだ。15章構成だったので時間はかかったものの、内容的にはそれほど難しいものではなかったが、いかんせん内容的に変化が乏しいので、後半の学生ほど「お題づくり」に難渋したようである。また、毎年のことではあるが、特に後期は出張や会議が多く、学生のみのゼミになることが多かった。1年生の発表を聞く機会を逃すのは心残りではあれど、今年度からはじまった「アカデミックスキル」で多少は緩和できるところもあるかもしれない。

本年度のゼミ旅行は、7月18・19日に日高方面を訪れた。様似町を目的地として、初日は、二風谷ダムでダムカードを獲得しつつ、うらかわ優駿ビレッジAERUを合流地点として、そこからJRA日高育成牧場・浦河町郷土資料館・浦河町馬事資料館を見学した。2日目には、アポイ岳ビジターセンターから襟裳岬に移動し、その周辺と風の館に立ち寄った。ここからは、基本的にはレクなしでひたすら旭川を目指すという、かなり移動時間の長い旅になったのは、若干の反省点である。食は、今年は乗車した車ごとでかなりバラバラに行動することが多かったように思う。初日の昼にラーメンのハシゴを狙ったラーメン車は、結局3打数1安打に終わりがっかり…夜は、地元の居酒屋に予約を入れておいたものの、安さがゆえに料理の不足がね…。夜の飲み会は、比較的早めに寝てしまった者も多かったが、最後までいた集団は3時くらいまでは飲んでいたように記憶している。富良野で買ったワインも全て空けてしまい、さすがに翌日の午前中はダメージ残りまくりだった…

年々ゼミイベントは増えている。今年の工場見学は5月下旬に旭川ガスを訪れた。旭川ガスではお土産にタンブラーをいただいた。個人的には、その日は市内で新歓コンパだったので、川沿いを飲みながらテクテク歩きつつ、会場についた頃にはかなり酔いが回っていたのは苦い思い出…。7月下旬、本年度で2度目の、浜頓別町において開催される「北オホーツク100kmマラソン」のボランティアスタッフとしての参加は、昨年に続き雨に降られてしまったが、無事に終えることができたようである。来年こそは、教員も参加できるような日程になってほしいものである。11月には、懸案であった植樹の実施に漕ぎ着けた。予定の半分にも満たない8本のライラックではあるが、根付くのが楽しみである。